

平成19年度水産研究所試験研究課題一覧

試験研究の基本的推進方向	研究課題名	内容	研究期間	担当	
産業として自立する農林水産業者の経営を支える新技術開発	商品性の高い農林水産物生産技術	アオリイカの鮮度保持技術の確立による市場拡大戦略	市場価値の高い高鮮度のアオリイカを輸送し、販売するための技術を開発する。	H18～H20	増養殖
		ワカメ品種の選抜・選定試験	漁場環境及び地域の利用目的に合った優良品種の選抜をおこない、鳴門ワカメのブランド力を高める。	H19～H21	環境増養殖
		ノリ育苗技術開発試験	本県の現在の漁場環境に合った育苗管理技術を開発するとともに、陸上育苗技術の開発を行い種網確保の一助とする。	H19～H21	環境増養殖
		イワガキ養殖試験	イワガキの養殖技術の開発。	H16～H20	環境増養殖
		人工ヒジキ群落造成技術開発	紀伊水道沿岸域(和田島地先)において人工的にヒジキ群落を造成する技術の開発をおこなう。	H17～H19	環境増養殖
		海のいどり増養殖技術開発試験	県内を含む国内各地で天然資源の枯渇が懸念されており、漁業者からの要望が強いオゴノリ類について、現場に即応できる増養殖技術開発に取り組む。	H17～H19	環境増養殖
省力・低コスト安定生産技術	省力・低コスト安定生産技術	資源管理に必要な情報提供事業	新漁業管理体制下での適切な操業支援、調査体制の一層の整備を目的に、沿岸域における漁海況情報の収集・分析・提供を行うとともに地域レベルでの漁海況情報の提供を行う。	H9～H19	海洋資源
		「虹」の効率的漁法の確立	曳き縄漁業、かご漁業などの小規模沿岸漁業において、LEDを利用することによる漁獲量増大効果を、試験操業・標本船調査などをおこない検討する。	H19～H20	海洋資源
		燃料経費削減のためのシラス魚群マップ即日配信システムの開発	漁業調査船に搭載された計量魚探の2周波を用いてシラスの魚群量を定量し、水温等海況情報と重ねて海図上に表示の上、即日配信するシステムを構築する。これにより、船曳網漁業者の漁場探索経費が節減され、損益分岐を考慮した出漁判断に貢献する。	H19～H21	海洋資源
		「かいふの海藻」育成事業	未利用資源の有効活用、増殖、養殖、生産の効率化を行うことにより、海藻製品の生産拡大する。	H19～H21	増養殖
		養殖藻類色落ち防止技術の開発	近年、ノリ・ワカメ養殖業では、葉の色が薄くなる「色落ち」現象が発生する頻度が高くなっている。このため、色落ちを防止する技術を開発する。	H17～H19	環境増養殖
県民の暮らしとのかを支える農林水産生産技術の開発	安心安全な農林水産物生産技術	バクテリオファージを用いた魚類細菌感染症の防除技術の開発	細菌の天敵ウイルスであるバクテリオファージを利用して、魚類細菌感染症に対する新しい治療法および予防技術(ファージ療法)を開発する。	H18～H20	増養殖
		養殖漁場環境調査	養殖漁場における水質及び底質の推移を把握し、その結果を基に適正な漁場利用を促進する。	～	環境増養殖
		有害・有毒プランクトンの被害防止対策	有害・有毒プランクトンの発生状況調査を行い、その結果を基に関係機関と連携した有害・有毒プランクトンによる被害防止を図る。	～	環境増養殖

試験研究の基本的推進方向		研究課題名	内容	研究期間	担当
県民のくらしと ちを支える農林水産 生産技術の開発	中山間地域活性化 のための、地域資 源利活用技術	環境調和型アユ増 殖手法開発	河川の付着藻類生産力を把握し、アユ環境 収容力を算定する。漁業実態調査を行うと ともに人工種苗放流魚の放流効果評価を 行う。	H14～ H19	増養殖
		河川における冷水 病の感染環解明と 防疫対策の検討	河川におけるアユ冷水病の感染経路およ び感染環を明らかにし、効果的な防疫対策 の確立に資する。	H17～ H19	増養殖
		アユ人工種苗の健 苗性評価試験	継代の少ないアユ種苗(F2、F3およびF4) に標識を付けて河川に放流し、河川におけ る冷水病に対する耐病性の有効性と放流 効果を調査することで、放流種苗としての 特性(健苗性)を明らかにする。	H19～ H21	増養殖
		ブラックバスによる アユ食害実態調査	吉野川下流域におけるブラックバスによる アユ食害実態を明らかにし、アユ資源への 影響を評価する。	H17～ H19	環境増養殖
	環境と調和した資 源の保全・利用技 術の開発	資源評価調査	ABC(生物学的許容漁獲量)の決定と対象 資源の管理状況把握を目的として、県内主 要漁協における漁獲量やそのサイズを把 握する。	H10～	海洋資源
		底生生物群集の資 源生態把握調査	小型底曳網等の標本船調査および主要漁 協の漁獲統計調査を実施し、過去の情報と ともにデータベース化することにより、紀 伊水道域の生物群集の動態を解析する。	H13～	海洋資源
		クルマエビの放流効 果把握調査	より効果的なクルマエビ種苗放流の実現の ために、尾肢切除標識を施したクルマエビ 種苗の放流をおこない、本種の放流効果を 算出する。	H13～ H19	海洋資源
		海域におけるアユの 分布・生息環境の解 明	吉野川及び周辺の河口域、沖合域におい て、アユ稚仔魚の生息環境調査を行い、生 態特性を解明すると共に、遡上量予測技術 の基礎資料とする。	H17～ H19	海洋資源
		包括的資源回復計 画(紀伊水道小型底 びき網漁業)作成推 進調査	平成18年度に着手承認された徳島県小型 底曳網漁業包括的資源回復計画に関して、 その実施に必要な資料収集・解析をおこ ない、実施後はその効果のモニタリング をおこなう。	H17～ H21	海洋資源
		紀伊水道機船船び き網漁業の資源管 理に関する情報提 供事業	カタクチイワシシラスの漁況予測に関する データの収集及び解析、漁場形成状況把 握のための餌料生物調査や計量魚探によ る音響調査を実施する。	H17～ H19	海洋資源
		海部郡沿岸海藻植 生調査	海部沿岸の海藻植生の変化を調査し、藻 場の現状と変遷を把握することにより、磯 焼けの原因究明と藻場造成に役立てる。	H11～ H21	環境増養殖
		播磨灘南部地区磯 焼け対策緊急整備 事業	播磨灘南部地区に造成される藻場を対象 に、食害対策や浮泥対策、種苗供給等をお こない、効率的なガラモ・カジメ場の造成と 新たに創出された造成藻場を良好に維持 するためのメンテナンス及びそのモニタリ ングをおこなう。	H19～ H23	環境増養殖
		種苗作りからのアマ モ場一貫造成技術 の開発	種子の発芽率および苗立率向上による種 苗の大量育苗技術の開発および小型封入 容器を用いた簡便かつ効果的なアマモ場 造成技術の開発をおこなう。	H17～ H19	環境増養殖
北部海域カジメ藻場 造成技術開発	北部海域におけるカジメの分布・生態等 を調査し、天然藻場の成立条件を把握す ると共に、生態学的特性に基づいた造成 技術を開発する。	H18～ H20	環境増養殖		

試験研究の基本的推進方向		研究課題名	内容	研究期間	担当
県民の暮らしと ちを支える農林水産 生産技術の開発	環境と調和した資 源の保全・利用技 術の開発	カワバタモロコ種苗 生産試験	レッドデータブックに絶滅種として分類され ているカワバタモロコの増殖対策として、本 種の種苗生産技術の確立と放流用種苗を 生産する。	H19～ H20	環境増養殖
		貝類及び藻類増殖 付加機能ブロック効 果検証調査	伊島漁港南沖防波堤で使用される貝類、 藻類の増殖機能を付加した消波ブロックの 磯根資源に対する増殖効果を検証する。	H19～ H21	環境増養殖
		海部地区藻場造成 調査	海部地区での藻場造成(公共事業)の計画 策定のため、当該地区での藻場の造成適 地や造成手法の検討、効果算定の基礎 データを作成する。	H19～H 21	環境増養殖